

平成7年

1995

愛工大附四連勝、女子は就実(二回目) 単は大柿友彦と小西杏が制覇

平成7年度第十六回全国中学校大会は八月十九日から二十二日までの四日間、宇都宮市体育館で開かれた。

参加校は男女各39校の78校、シングルスは男子91、女子90名計181名が参加した。

男子学校対抗

予選リーグ

- ▽Aブロック ①豊津(福岡)2勝 ②千城台南(千葉)1勝1敗 ③長井南(山形)2敗
▽Bブロック ①思水(福岡)2勝 ②城山(栃木)1勝1敗 ③武生第三(福井)2敗
▽Cブロック ①志村第三(東京)2勝 ②豊間(福島)1勝1敗 ③中島(愛媛)2敗
▽Dブロック ①愛工大附(愛知)2勝 ②亀田(新潟)1勝1敗 ③大平(青森)2敗
▽Eブロック ①西中原(神奈川県)2勝 ②大和(山口)1勝1敗 ③高知西部(愛知)2敗

- ▽Fブロック ①八王子第七(東京)2勝 ②池田(北海道)1勝1敗 ③富洲原(三重)2敗
▽Gブロック ①長浦(千葉)2勝 ②松江第一(高根)1勝1敗 ③春光台(北海道)2敗
▽Hブロック ①市貝(栃木)2勝 ②檀宮崎(山形)1勝1敗 ③茨木(大阪)2敗
▽Iブロック ①河北(山形)2勝 ②朝陽(三重)1勝1敗 ③新(広島)2敗
▽Jブロック ①可部(広島)2勝 ②山科(京都)1勝1敗 ③北の台(神奈川県)2敗
▽Kブロック ①上磯(北海道)2勝 ②早那原(沖縄)1勝1敗 ③平岡(兵庫)2敗
▽Lブロック ①梅林(岐阜)2勝 ②福光(富山)1勝1敗 ③日吉(滋賀)2敗
▽Mブロック ①徳島(徳島)2勝 ②打上(佐賀)1勝1敗 ③見陽(栃木)2敗

決勝トーナメント

- 豊津(福岡) 3-2 西中原(神奈川県)
愛工大附(愛知) 3-2 徳島(徳島)
可部(広島) 3-1 志村第三(東京)
梅林(岐阜) 3-1 思水(福岡)
河北(山形) 3-1 八王子第七(東京)
準々決勝
上磯(北海道) 3-0 豊洲(福岡)
愛工大附(愛知) 3-2 可部(広島)
梅林(岐阜) 3-1 市貝(栃木)
河北(山形) 3-1 長浦(千葉)
準決勝
愛工大附 3-1 上磯
0-1 敦崎 昌広 2
21-11 0 伊藤 隆人
0-2 大柿 友彦 2
21-13 0 渋谷 旭
3 古田 章人 0
16-8 21 黒田 尚樹
中村 公宣 0
21-21 2 井口 雄大
0-4 近藤 隆典 2
21-11 0 福田 桂介
5 和久井 怜
梅 林 3-2 河 北
卓也 0
9-14 21 2 布川 拓己

○：東海の決勝と同じカードとなった愛工大附と梅林の対戦。阿部、太田昌と二枚にける梅林は前半勝負。梅林は阿部がトップを制したものの、太田昌が大柿に屈して、ここで勝負あった。愛工大附はダブルスは勝てなかったが、シングルスは全員得点力があり順当の優勝がシングルを通じての大会新記録を樹立した。敗れたとはいえ梅林の健闘も見事であり、準決勝の河北戦の逆転勝利は鮮やかであった。また、準決勝で王者愛工大附に挑んだ上磯の戦いぶり、惜しくも梅林に屈した河北のフアイトあふれる戦いもささやかであった。このほか、決勝トーナメント二回戦で愛工大附に負けた可部、梅林と対等にわたりあった市貝も印象に残った。

女子学校対抗

予選リーグ

- ▽Aブロック ①武蔵野(東京)2勝 ②阿久比(愛知)1勝1敗 ③白鷺(兵庫)2敗
▽Bブロック ①山陽女子(岡山)2勝 ②富田(徳島)1勝1敗 ③岩瀬(茨城)2敗
▽Cブロック ①文大杉並(東京)2勝 ②飯岡(宮崎)1勝1敗 ③飯沼(福島)2敗

- ▽Dブロック ①淑徳(東京)2勝 ②鋼路島取(北海道)1勝1敗 ③彦根(滋賀)2敗
▽Eブロック ①曾根(福岡)2勝 ②朝日(石川)1勝1敗 ③栃木南(栃木)2敗
▽Fブロック ①名栗(埼玉)2勝 ②土佐女(高知)1勝1敗 ③春日井中部(愛知)2敗
▽Gブロック ①上磯(北海道)2勝 ②早良(福岡)1勝1敗 ③益田(島根)2敗
▽Hブロック ①就実(岡山)2勝 ②長浦

- 千葉1勝1敗 ③滑石(長崎)2敗
▽Iブロック ①向洋(宮城)2勝 ②五色(兵庫)1勝1敗 ③武生第三(福井)2敗
▽Jブロック ①多賀城(宮城)2勝 ②大井川(静岡)1勝1敗 ③高岡西部(富山)2敗
▽Kブロック ①四天王寺(大阪)2勝 ②中野(宮城)1勝1敗 ③東米里(北海道)2敗
▽Lブロック ①淑徳学園(東京)2勝 ②金峰(鹿児島)1勝1敗 ③木之子(岡山)2敗
▽Mブロック ①高蔵(愛知)2勝 ②鎌ヶ谷第二(千葉)1勝1敗 ③徳島(徳島)2敗

決勝トーナメント

一回戦

- 山陽女子(岡山) 3-0 向洋(宮城)
四天王寺(大阪) 3-1 上磯(北海道)
武蔵野(東京) 3-1 高蔵(愛知)
淑徳(東京) 3-0 多賀城(宮城)
就実(岡山) 3-1 文大杉並(東京)
準々決勝
山陽女子(岡山) 3-2 淑徳学園(東京)
武蔵野(東京) 3-2 四天王寺(大阪)
淑徳(東京) 3-2 曾根(福岡)
就実(岡山) 3-0 名栗(埼玉)
準決勝
武蔵野 3-0 山陽女子
0-1 加藤真知子 2
9-21 19 1 石橋 典子
22-20 21 21 0 難波ひとみ
0-2 斎藤奈津子 2
21-17 22 21 0 難波ひとみ
3 山口 真莉 2
21-16 21 21 1 梶浦 奈々
3 川島有美子 2
21-14 14 21 1 森谷 祐子
5 樋口 裕子 1
21-21 21 21 0 國田 佳奈
就実 3-2 田中 知香

決勝

- 0-1 中島 絵理 2
21-16 21 14 0 樋口 裕子
0-2 藤井 聖子 2
23-21 21 15 0 加藤真知子
3 田中 康子 2
17-21 17 21 16 0 小野磨奈美 1
21-19 21 15 21 16 1 川島有美子
4 山元 知子 1
21-15 15 21 21 2 星野 晴子
5 笠井 八重 1
21-25 25 21 2 清 志津子
0-5 中島 絵理 2
21-19 21 15 0 川島 緒梨

就実

○：東京の女子四チームが決勝トーナメントに出場という活躍をみせた。この中で関東を制した武蔵野が四天王寺、山陽女子を連破して決勝に進出。一方中国優勝の就実は東京の文大杉並、淑徳を下して決勝に出た。決勝は中島の先制点が効果的で3-0で優勝を決めた。就実の優勝は十二年ぶり二回目の優勝と中島が軸だったが、中島が決勝トーナメント全勝と立役者となった。武蔵野は準々決勝で四天王寺と激突、トップで斎藤が軸田をさきどくした殊勲の一点が勝利につながった。ダブルスで得点できなかった大さかた。準決勝で優勝した就実に対した淑徳はダブルスから巻き返したものの及ばなかった。山陽女子は淑徳学園との接戦を勝ち抜いてベスト4入り。この年も私立チームがベスト4独占、ベスト8に六チームという私立上位が顕著な大会でもあった。東京四チームも全部私立。



季節はずれのタンポポ (本校卓球部の前で黙想し、この言葉を百回念じてから練習していた選手たち。厳しい練習にも耐え、素直な心で前向きによく取り組んでくれました。日常生活もきちんとしていたので信頼のおける子達でした。大会前は故障者も出て不安でしたが、ひたむきな選手達の姿をみていた神様が、日本一という素敵なお礼のプレゼントを下さったのだと思います。ところで、本校卓球部の精神である「タンポポ魂」は、私の中・高時代の恩師でもある竹内美保先生(現本校監督)に教わったものです。どんなに固い土でも生え、踏まれても踏まれても負けない強い力を持っているタンポポ

就実中学校 林 礼子

念ずれば花ひらく

のような人にといいものです。本当に大切なものは、目に見えない金メダルだと思います。全国制覇や世界を目指す過程で養われた人間性のことです。卓球を通して得たこの精神は選手達にとって一生の宝になることでしょう。目に見えない金メダルを持つ本校の多くの卒業生がタンポポの綿毛と合わせて、全国各地で活躍してくれることが一番嬉しいことです。最後に、本校の竹内先生、小原先生、山下先生、コーチとして来て下さる笠井賢二先生(元世界三位) など多くの方々のお力と良き選手達に恵まれ、優勝できたことに心から感謝しております。私自身、指導者としての課題も多く、力不足の面もありますが、努力を忘れず、今後も先生の先方と力を合わせ頑張っていきたいと思っております。

